

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成25年度事業)

平成26年7月

大仙市教育委員会

目 次

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検・評価の実施方法	1
3	教育委員会の活動に関する事務	2
	(1) 教育委員会の会議の開催状況	2
	(2) 教育委員会委員の活動状況	5
	(3) 教育委員会委員の研修状況	5
4	点検・評価の対象事業	6

No.	分 野	事務・事業名	担当課等
1	学校教育	スクールバス運行事業	教育総務課
2	学校教育	地産地消の推進	学校給食総合センター
3	学校教育	学校生活支援事業	教育指導課
4	学校教育	音のまち大仙楽器サポート事業	教育指導課
5	学校教育	だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業	教育指導課
6	学校教育	学力向上推進委員会の設置	教育研究所
7	生涯学習	学校支援地域本部事業	生涯学習課
8	生涯学習	生涯学習推進体制整備事業	生涯学習課
9	生涯学習	「青少年健全育成基本方針」の策定、推進	生涯学習課
10	生涯学習	花館公民館まつり	花館公民館
11	生涯学習	市民大学おもしろ講座	神岡中央公民館
12	生涯学習	高齢者教育事業（寿楽大学）	西仙北中央公民館
13	生涯学習	ほたるの観察会	中仙公民館
14	芸術文化	まほろば唐松芸術祭	協和公民館
15	芸術文化	南外小唄まつり	南外公民館
16	芸術文化	仙北ふれあい文化センター自主事業	仙北公民館
17	生涯学習	太田花いっぱい運動事業	太田公民館
18	生涯学習	ブックスタート事業	総合図書館
19	芸術文化	秋田おばこ節全国大会	総合市民会館
20	芸術文化	旧池田氏庭園整備事業	文化財保護課
21	芸術文化	払田柵跡環境整備事業	文化財保護課
22	芸術文化	鈴木空如資料調査研究事業	文化財保護課
23	スポーツ	チャレンジデー	スポーツ振興課
24	スポーツ	全県500歳・550歳野球大会	スポーツ振興課
25	スポーツ	スポーツ合宿等推進交流事業	スポーツ振興課

5	学識経験者の総評	31
---	----------	----

1 点検・評価の趣旨

大仙市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定により、教育委員会が行う教育事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとしました。

2 点検・評価の実施方法

(1) 点検・評価の対象とする事務

点検・評価の対象とする事務は、平成25年度の教育委員会の活動に関する事務のほか、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいせんビジョン、大仙市生涯学習推進計画又は大仙市スポーツ推進計画に基づく同年度に実施した事業のうち、25事業を選定し、点検・評価を行いました。

(2) 点検・評価の方法

点検・評価は、事務事業の点検・評価表により、担当課による自己評価を実施するとともに、有識者からの外部評価をいただきました。

(3) 外部評価していただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の規定に基づき、秋田大学教育文化学部 副学部長 佐藤修司教授、前花館小学校校長 藤原保子氏、社会教育委員 鈴木三郎氏の3氏から評価していただきました。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 教育委員会の活動に関する事務

(1) 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会があります。平成25年度は、定例会のほか臨時会を2回開催し、合計14回開催しました。

開催期日 及び場所	議 案
H25. 4. 23 (定例会) 大曲図書館	議案第17号 平成24年度大仙市一般会計補正予算（第12号）案に関する臨時代理について 議案第18号 奨学資金運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第19号 教育アドバイザーの任命に関する臨時代理について 議案第20号 社会教育指導員の委嘱に関する臨時代理について 議案第21号 社会教育委員兼大仙市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第22号 公民館運営協力委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第23号 大仙市立図書館協議会委員の任命に関する臨時代理について 議案第24号 大仙市市民会館等運営連絡協議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第25号 大仙市市民会館等運営連絡協議会専門委員会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第26号 大仙市文化財保護審議会委員の任命に関する臨時代理について 議案第27号 スポーツ推進委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第28号 平成25年度大仙市一般会計補正予算（第1号）案に関する臨時代理について 議案第29号 平成25年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第1号）案に関する臨時代理について
H25. 5. 24 (定例会) 大曲図書館	議案第30号 給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱について 議案第31号 スポーツ推進委員の委嘱について
H25. 6. 28 (定例会) 大曲図書館	議案第32号 平成25年度大仙市一般会計補正予算（第2号）案に関する臨時代理について 議案第33号 平成25年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第2号）案に関する臨時代理について 議案第34号 大仙市教育委員会会議規則の一部を改正する規則の制定について 議案第35号 大仙市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則の制定について 議案第36号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について 議案第37号 大仙市特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について 議案第38号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について 議案第39号 旧池田氏庭園保存整備審議会委員の委嘱について
H25. 7. 1 (臨時会) 大曲図書館	議案第40号 大仙市教育委員会委員長選挙について 議案第41号 大仙市教育委員会委員長職務代理者の指定について

開催期日 及び場所	議 案
H25. 7. 25 (定例会) 大曲図書館	なし (報告案件のみ)
H25. 8. 19 (定例会) 大曲図書館	議案第42号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定に関する臨時代理について 議案第43号 大仙市就学指導委員会委員の委嘱について
H25. 9. 25 (定例会) 南外コミュニティセンター	議案第44号 平成25年度大仙市一般会計補正予算 (第3号) 案に関する臨時代理について 議案第45号 平成25年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算 (第3号) 案に関する臨時代理について 議案第46号 平成25年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算 (第1号) 案に関する臨時代理について 議案第47号 大仙市文化財の指定解除、指定名称変更及び指定について
H25. 10. 28 (定例会) 仙北ふれあい文化センター	議案第48号 大仙市立中学校生徒合宿所設置及び管理運営に関する規則を廃止する規則の制定について 議案第49号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について
H25. 11. 27 (定例会) 大曲図書館	議案第50号 西部学校給食センター建設 (建築) 工事請負契約案に関する臨時代理について 議案第51号 西部学校給食センター建設 (機械設備) 工事請負契約案に関する臨時代理について 議案第52号 平成25年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算 (第4号) 案に関する臨時代理について 議案第53号 健康福祉部、生涯学習部及び市立大曲病院に係る消費税法及び地方税法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定に関する臨時代理について 議案第54号 大仙市南外体育館等の指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第55号 大仙市ふれあい体育館等の指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第56号 平成25年度大仙市一般会計補正予算 (第5号) 案に関する臨時代理について 議案第57号 平成25年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算 (第5号) 案に関する臨時代理について 議案第58号 平成25年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算 (第2号) 案に関する臨時代理について 議案第59号 大仙市民体育館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

開催期日 及び場所	議 案
H25. 12. 26 (定例会) 大曲図書館	なし (報告案件のみ)
H26. 1. 29 (定例会) 大曲図書館	議案第1号 大仙市いじめ防止等基本方針について 議案第2号 大仙市学校給食センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 議案第3号 大仙市小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について 議案第4号 大仙市立小中学校事務共同実施組織運営規程の制定について 議案第5号 大仙市立小中学校事務共同実施推進協議会設置要綱の制定について
H26. 2. 17 (定例会) 大曲図書館	議案第6号 大仙市社会教育委員設置条例の一部を改正する条例案に関する臨時代理について 議案第7号 平成25年度大仙市一般会計補正予算 (第7号) 案に関する臨時代理について 議案第8号 平成25年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算 (第6号) 案に関する臨時代理について 議案第9号 平成25年度大仙市奨学資金特別会計補正予算 (第1号) 案に関する臨時代理について 議案第10号 平成25年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算 (第3号) 案に関する臨時代理について 議案第11号 平成26年度大仙市一般会計予算案に関する臨時代理について 議案第12号 平成26年度大仙市学校給食事業特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第13号 平成26年度大仙市奨学資金特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第14号 平成26年度大仙市スキー場事業特別会計予算案に関する臨時代理について
H26. 3. 3 (臨時会) 大曲図書館	議案第15号 県費負担教職員の人事の内申について
H26. 3. 24 (定例会) 大曲図書館	議案第16号 大仙市教育委員会の職員の補職名に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第17号 大仙市就学指導委員会規則の一部を改正する規則の制定について 議案第18号 大仙市教育委員会事務局専決規程の一部を改正する訓令の制定について 議案第19号 大仙市スクールバス運行管理規程の制定について 議案第20号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について

※ 議案番号は、暦年による一連番号です。

※ 9月及び10月の定例会は、移動教育委員会として開催しました。

(2) 教育委員会委員の活動状況

入学式	平成25年4月 5日から同年4月 9日まで	小学校21校、中学校11校	全32校
公民館訪問	平成25年4月11日・12日	市内 8 公民館	
学校訪問	平成25年5月21日から同年6月27日まで	小学校21校、中学校11校	全32校
卒業式	平成26年3月 9日から同年3月18日まで	小学校21校、中学校11校	全32校

(3) 教育委員会委員の研修状況

平成25年 9月25日	南外民俗資料交流館視察	全委員
平成25年10月22日	秋田県市町村教育委員会委員研修会	委員 4 人
平成25年10月28日	国際教養大学視察 旧池田氏庭園巨洲館視察	全委員
平成25年11月 1日	全県市町村教育委員会委員長・教育長会議	委員長及び教育長
平成25年11月15日	大仙仙北美郷教育委員会連絡会	全委員

事務事業の点検・評価表

番号	5	分野	学校教育	担当課	教育指導課
----	---	----	------	-----	-------

事業名	だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業				
事業の目的	被災地との交流や地域の自主防災組織等との連携による避難所開設訓練等を通して、小・中学生の防災教育の充実に資するとともに、家庭・地域の防災意識の向上に寄与することを目的とする。				
事業の実施状況	事業費	498千円			
	<p>1 被災地との交流</p> <p>(1) 時期 通年</p> <p>(2) 場所 主として岩手県や宮城県の被災地</p> <p>(3) 参加対象 市内の6中学校、1小学校と被災地の中学生や住民等</p> <p>(4) 主な活動 被災した地域の中学生や住民との心のふれあい (グラントゴルフ大会、合唱披露、学校祭への招待など)</p> <p>2 避難所開設訓練の実施</p> <p>(1) 時期 9月17日～18日</p> <p>(2) 場所 平和中学校</p> <p>(3) 参加対象 訓練実施校の全校児童生徒及び教職員、保護者 市総合防災課、消防署、地域住民(町内会や消防団等)、 市教育委員会、その他関係機関</p> <p>(4) 主な活動 地震発生時等の避難訓練及び避難所開設に関わる初期対応 * 生徒避難・避難所開設要請・避難広報・避難所の安全確認・受付 避難所運営会議・避難所運営業務・避難所設営・炊き出し</p> <p>3 各学校における防災教育の充実</p> <p>(1) 時期 通年</p> <p>(2) 場所 各小・中学校</p> <p>(3) 参加対象 市内全ての児童生徒</p> <p>(4) 主な活動 「防災リュック」等の教材を用いた学習 「冬季の避難訓練」や「引き渡し訓練」による体験的な学習の実施</p>				
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した		<input type="checkbox"/> おおむね達成した		
	<input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input type="checkbox"/> 達成できなかった		
	本事業の実施により、各学校の防災教育の充実に資する情報が得られたとともに、児童生徒が自分の命は自分で守ることの大切さを感じ取ることができた。また、児童生徒が実践的な訓練を通して体験したことそのものが家庭や地域へと伝わり、地域住民や広く市民に自主防災組織づくりの重要性を訴える機会につながった。				
課題等	各中学校を中核とした地域の自主防災力を高めていくためにも、学校における防災備蓄の整備が必要である。				
外部評価 有識者の 意見・評価	○以前もそうであるが、特に東日本大震災以降、喫緊かつ必須の取組であり、充実に図っていただきたい。できれば、中学校3年間のうちに1回は避難所開設訓練を経験することが望ましい。特に地域の自治会等との連携を重視していただき、防災備蓄にも一層取り組んでいただきたい。 ○学校ごとの防災教育が順調に推進されているので、各地域が学校を巻き込みながら防災に取り組む環境づくりをお願いしたい。 ○被災地との交流や、地域住民を含めた平和中学校での避難所開設訓練の実施などにより防災教育の大切さを実感できた有意義な事業であった。 今後も、学校地域を拡大した計画を願う。				

事務事業の点検・評価表

番号	7	分野	生涯学習	担当課	生涯学習課
----	---	----	------	-----	-------

事業名	学校支援地域本部事業				
事業の目的	<p>未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。</p> <p>そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民等の参画による地域の実情に応じた取組を有機的に組み合わせて、授業等における学習補助や教員の業務補助などの学校支援活動を行う。</p> <p>また、これらの取組を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進する。</p>				
事業の実施状況	事業費				3,566千円
自己評価	<p>「大仙市生涯学習推進計画」において、大項目の『(1-3)学校と地域の連携』に記載されている計画期間(平成24年度～28年度)を通じての重点事項である。</p> <p>市内全8地域において、8小学校及び2中学校に学校支援地域本部を設置し、事業を行った。各学校に設置された地域本部においては、学校への支援のあり方や内容を企画、立案し、地域と学校を結ぶ役目として地域コーディネーターを配置する。</p> <p>コーディネーターは、学校の要請に応じてボランティア等との連絡調整をし、支援をする。また、ホームページや啓発チラシ等により、地域住民への情報発信も行った。</p> <p>各本部での具体的な取組の一例としては、登下校の安全指導・授業の補助・環境整備・部活動指導・学校行事の支援等がある。とりわけ、平成25年度においては、神岡地域で、学校を避難所に想定した防災訓練が行われ、地域への貢献という一面でも一歩前へ踏み出した取組がなされている。</p> <p>平成25年度実績については、延べボランティア数25,700名、 延べ活動日数:学習支援活動805日、部活動指導770日、環境整備776日、 登下校安全指導2250日、学校行事330日</p>				
課題等	<p>事業実施については順調に推移しているが見ているが、情報発信の面において啓発チラシの作成が一部の本部でしか実施されていない現状である。それに代わるものとしてホームページの作成や、チラシを作成するコーディネーターの複数配置などが考えられるが、実施可能な本部については必要な経費について優先的に予算を配分し、この面での充実を図ることが課題である。</p>				
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○学校支援地域本部事業を通して、学校を地域が支えるばかりでなく、学校が地域を支える、互恵的な関係が作れるように発展させていただきたい。学校統廃合が地域に与える影響は大きいことから、学校が地域の核としての機能を果たせるように、全ての住民が関われる体制づくりを進めていただきたい。</p> <p>○支援本部の方々は、様々な活動への人材確保、情報発信等、とても尽力されているように感じている。</p> <p>○8小学校、2小学校に設置されている学校地域支援本部は、学校と地域住民との大事な交流となっている。</p> <p>地域住民の学校行事への支援は、多岐にわたっている。学校と地域を結ぶ地域コーディネーターの配置は重要な役割を果たしていることから、複数の配置が望ましい。</p>				

事務事業の点検・評価表

番号	9	分野	生涯学習	担当課	生涯学習課
----	---	----	------	-----	-------

事業名	「青少年健全育成基本方針」の策定、推進				
事業の目的	<p>国が平成22年7月に策定した「子ども・若者ビジョン」を踏まえつつ、秋田県が平成23年3月に策定した「あきた子ども・若者プラン」を踏まえ、子ども・若者の成長・発達と、困難を抱える子ども・若者を支援するため、「大仙市子ども・若者育成支援基本方針」を策定。</p> <p>また、青少年の健全育成を総合的に推進するための指針を示し、その具現化を図るための具体的な行動や活動を共通認識化する。</p>				
事業の実施状況	事業費	122千円			
	<p>「大仙市生涯学習推進計画」の平成25年度重点事項である。</p> <p>平成23年度から検討委員会を組織し検討に着手し、平成24年4月に、「大仙市子ども・若者育成支援基本方針」として策定した。従来からの青少年健全育成事業としては、青少年育成大仙市民会議への支援等があり、それに加え子ども・若者周辺の現状を鑑み、困難を抱える子ども・若者への支援方針を打ち出したことが特徴といえる。平成24年度は同方針に沿った形で雇用促進事を活用し、NPO法人「大仙親と子の総合相談センター」に委託し「大仙市青少年自立困難者訪問サポート事業」を実施した。</p> <p>平成25年度からは、困難を抱える子ども・若者支援の部分が健康福祉部へ所管替えとなり、4月に旧中通児童館において「大仙市子ども・若者総合相談センター」が開設されるに至った。生涯学習部では、各種研修やセミナー等の情報提供を通じて引き続き支援を継続している。</p>				
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div> <p>国及び県の方針が示されてから速やかに市の方針が策定されたこと、また新たに困難を抱える子ども・若者への支援方針が打ち出されたこと、更にはそのことへの具体的な対応策として「大仙市親と子の総合相談センター」開設に至ったことで、一定の成果を挙げたといえる。</p>				
課題等	<p>従来からの青少年大仙市民会議への支援を継続することに加え、新しい分野の困難を抱える子ども・若者への支援について、生涯学習部の所掌範囲において健康福祉部の事業に協力すること。</p> <p>具体的には、今後市民講座等でこの問題を取り上げていくなどが考えられる。</p>				
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○困難を抱える子ども・若者支援に関する業務が健康福祉部に移管になったとはいえ、学校教育、社会教育の部分を含めて、総合的に施策を展開する体制を築いていただきたい。連絡会を設けるなどして、情報交換、施策の調整を行うなどのことを考えていただきたい。</p> <p>○NPO法人についても相談センターについても、市民への認知は進んでいないと実感している。健康福祉部と大いに連携を図っていただきたい。</p> <p>○平成25年度から困難を抱える子ども・若者支援に関する業務が健康福祉部に移管となったが、情報提供を通じて事業の協力体制を継続してほしい。</p>				

事務事業の点検・評価表

	番号	15	分野	芸術・文化	担当課	南外公民館
事業名	南外小唄まつり					
事業の目的	<p>南外地域には長い間唄い継がれてきた「南外小唄」という民謡がある。地域で催し物がある度に唄い、踊り、この唄が様々な場を盛り上げながら地域住民の心を一つにしてきた。</p> <p>この「南外小唄」の伝承と普及を図りながら地域を活性化し、地域住民の生活に潤いと生きがいを与えようとするものである。</p>					
事業の実施状況	事業費					347千円
自己評価	<p>今回初めての開催となるイベントということで、実行委員会を組織し、内容について協議を重ね実施に至った。</p> <p>・実施日時 平成26年1月26日(日) 10:30～15:30 ・会場 南外コミュニティセンター ・内容 【第1部:南外唄と踊りの祭典】 ・市芸術文化協会南外支部加盟の芸能団体中心による舞台発表 【第2部:南外小唄コンクール】 ・「南外小唄」の歌詞を3番まで唄い、最優秀賞を競った。 ・出場者は大仙市内外から26名 ・最優秀賞(大仙市長賞)1名、優秀賞2名、努力賞1名 敢闘賞1名</p> <p style="text-align: center;">※地元民謡保存会会員がボランティアとして運営に協力</p>					
課題等	<p>民謡ファンは高齢者が多いということで、今回のイベントに交通手段が無く来られなかったという声を聞いたので、次回は市民バスの活用も考えたい。</p> <p>また、若い世代をいかに巻き込むかが課題であり、次回はコンクールにジュニア部門を設け、小中学生の参加を期待したい。</p>					
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○初回の取組として十分な成果があったと評価できる。地域の恒例行事として定着するための取組とともに、小中学校と連携した取組を期待したい。</p> <p>○南外小唄が、携帯の呼出し音にまでなっていることに興味がわいた。園児や小中学生、高校生も耳にする機会を増やしてみたらどうか。</p> <p>○地元住民が立ち上げたイベントとして意義がある。将来とも定着するように願う。</p>					

事務事業の点検・評価表

	番号	17	分野	生涯学習	担当課	太田公民館
事業名	太田花いっぱい運動事業					
事業の目的	地域一体で花を育てる花いっぱい運動を通して、慈しむ心が生まれ、心の通う明るい地域社会を目指す。また、花づくりを通して、人づくり、まちづくりなどの地域コミュニティの構築や地域の活性化を図ることを目的とする。更には、地域を訪れた多くの人を花でおもてなし、「花のまち太田」をPR、環境美化や緑化の推進にもつながる。					
事業の実施状況	事業費	1,141千円				
	1 地域花だん活動支援	○地域23集落の一般住民と子ども会、太田中学校生徒による地域花だんの植栽。夏休みには子ども会・中学生が交代で花だんの水やりや地域の婦人会・老人クラブが花だんの草取りなどを実施。地域の環境を整える支援事業				
	2 太田花いっぱいコンクール	○昭和63年から実施。毎年8月に、太田地域の家庭花だん、企業・学校などの花だんコンクールを開催(事前に参加を呼掛け)。審査員が町内を回り、審査を実施して次の年の4月、講演会と表彰状の伝達を実施する事業 H25花いっぱいコンクール応募数98個人(世帯)、37団体				
	3 全県花だんコンクールに参加	○昭和46年から全県花だんコンクールに参加。(家庭花だん、地域花だん、学校花だん)審査員を現地に招き実施する事業 H25全県花だんコンクール応募数 10個人(世帯)、14団体				
	4 太田地域花だんフェア	○平成5年から始めている事業。毎年8月末～9月初めまで、太田中学校前庭を会場に、団体や個人で手づくりした花のプランターを持ち寄り、一時的にミニ花だんを作成して花だんフェアを開催。開催期間の最初の土・日に、中学生による吹奏楽演奏会や一般を対象に寄せ植え体験なども行っている。また、個人の家庭花だんを見て回るお花見バスを運行、訪れた方々を楽しませている。更には、太田中学校の生徒がお客さんをおもてなしするなどふれあう機会を設けている。				
	5 道路花だん・水仙ロード設置活動支援	○昭和36年秋田国体を契機に県の花いっぱい運動の会が提唱した花いっぱい運動を太田地域では昭和36年から道路に花だんを作ることから始めた。その取組が水仙ロードづくりである。公民館が中心となり地域内外の方々に水仙の球根を提供してくれるよう呼びかけ、11月に太田花の会、地域の方々の協力を得て道路に水仙の球根を植える事業(平成25年末:太田地域水仙ロード延長約35km)。				
	6 太田シンボル花だん・花の看板の設置	○他町から太田地域に入る入口付近の道路に花のまちをイメージする看板やシンボル花だんを設置する事業 H25現在 花の看板4か所、シンボル花だん1か所				
	7 先進地視察研修	○ 地域全域に呼びかけ、年1回先進地を視察研修し、地域の花づくりに役立てることを目的に実施(経費については、参加者の実費負担)				
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した		<input type="checkbox"/> おおむね達成した			
	<input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input type="checkbox"/> 達成できなかった			
①太田地域は昭和36年の秋田国体を契機に、住みよい郷土を住民の奉仕によって作るため「花いっぱい運動」を提唱してきた長い歴史のある先進地域であります。そのため住民総参加の運動として深く浸透している。地域花だんでは、市が助成する花苗に止まらず地域が協力して自らが栽培した花で地域を花でいっぱいにするなどの環境を整えており、特に花いっぱいコンクールは地域に欠かせない事業であり地域コミュニティの活性化に大いに役立っている。 ②上記の多様な事業の実施状況を通して、花いっぱい運動の成果が地域に表れており、今後も地域と一緒にアイデアを出し合いながら続ける必要がある。						
課題等	地域の方々を中心に、家庭花だんをはじめ「花のまち太田」を彩っているが、花づくりをしている人の高齢化が進んでいる。花フェアやコンクールなども高齢を理由に辞退する人が少しいるなど課題も見えてきており、今後の時代の後継者を育てる運動が必要とされている。					
外部評価 有識者の意見・評価	○太田地区の特徴ある活動に公民館が重要な役割を果たしている。今後とも地域づくりや、子どもへの継承、住民のつながり形成などに取り組んでいただきたい。 ○大槌町への花提供に頭が下がる。このように、旧太田町時代から温めてきた事業の継続には、中年層のリーダーシップが鍵となる。 ○長い歴史のある太田花いっぱい運動。他市町村からの視察者が増えるよう努力を願う。					

事務事業の点検・評価表

番号	23	分野	スポーツ	担当課	スポーツ振興課
----	----	----	------	-----	---------

事業名	チャレンジデー				
事業の目的	<p>市民が身近な場所で、年齢や性別を問わず気軽に楽しんで参加し、15分以上の継続した運動やスポーツ等を行うことで「健康づくり」や「地域の連携と活性化」のきっかけをつくり、更には市内の各地域・各団体等が連携しながらスポーツに親しむことによって、「生涯スポーツ社会の実現」を図る。</p>				
事業の実施状況	事業費	1,228千円			
	<p>大仙市では平成25年度から、毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されている住民参加型のスポーツイベント「チャレンジデー」を実施し、行政・スポーツ推進委員・総合型地域スポーツクラブ・体育協会等で組織する実行委員会を設立して、学校や事業所などにも協力をいただきながら全市民を対象とした事業として取り組んだ。</p> <p>当日は、各施設でラジオ体操を放送する全市一斉チャレンジタイム・スポーツゴミ拾い・ロープジャンプ等のほかにも、市内各地区でイベントを実施した。</p> <p>また、市内スポーツ施設を無料開放にし、市民が気軽に運動に取り組めるよう配慮した。</p>				
自己評価	<p> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </p> <p>平成25年度の結果は大仙市参加率40.6%、長崎県大村市67.9%で大仙市の敗戦となったが、市としては全体で初めての参加ながら、約3万6,000人に参加いただいた。</p> <p>多種多様なイベントを各地域で行い、学校や団体等にも協力をいただいたことで、身近な場所でスポーツをするきっかけづくりができた。しかしながら、初めての参加ということもあり、「チャレンジデー」というイベントそのものの知名度が低く、市民に浸透するには時間がかかると思われる。</p>				
課題等	<p>今後参加回数を重ねるごとに、市民全体にチャレンジデーの概要が浸透していくよう、広報活動をしていく。そして、チャレンジデーには団体や学校も参加しているので、このイベントを通じて、市全体の連携につながるよう努めていく。</p>				
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○初回ということであり、大いに成果があったと言える。今後に向けて課題を整理し、公私を超えた幅広い取組となるように工夫を重ねていただきたい。</p> <p>○チャレンジデーの参加者が昨年よりも増えている。着実にこの事業の楽しさにふれ、参加者が増加していくことを大事にしたい。</p>				

事務事業の点検・評価表

	番号	24	分野	スポーツ	担当課	スポーツ振興課
事業名	全県500歳・550歳野球大会					
事業の目的	「一生 スポーツ 一生 健康」のキャッチフレーズの下、500歳・550歳野球大会を開催することにより、こよなく野球を愛する多くの熟年世代の心身の健康増進を図る。併せて、地域知名度の向上と観光宣伝及び特産品PRを通じて地域活性化を図る。					
事業の実施状況	事業費	2,500千円				
事業の 実施状況	<p>【第22回 全県550歳野球大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽選会 平成25年6月21日(金) 秋田魁新報社 ・大会期日 平成25年7月27日(土)～29日(月) ・会場 南外山村運動広場(主会場) ほか3会場(全 4会場) ・出場チーム 24チーム ・試合数 23試合 <p>【第35回 全県500歳野球大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽選会 平成25年8月9日(金) 秋田市文化会館 ・大会期日 平成25年9月28日(土)～10月2日(水) ・会場 1. 神岡野球場(主会場)、2. 大曲球場、3. サン・スポーツランド協和野球場 4. 八乙女球場 ほか14会場(全 18会場) ・出場チーム 179チーム ・試合数 178試合 <p>・全県550歳野球大会参加チーム数 H24年度 24チーム → H25年度 24チーム ・全県500歳野球大会参加チーム数 H24年度 177チーム → H25年度 179チーム</p>					
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div> <p>大仙市を代表するスポーツイベントとして成長しており、出場を希望するチームが増加傾向にある。 また、中高年層の方々が、継続的にスポーツを行うことへの動機づけとなっており、生活資質の向上・健康づくりへの貢献、「一生 スポーツ 一生 健康」において有意義である。</p>					
課題等	雪解けと同時に練習試合や交流戦が行われており、高齢者の健康づくりの一役を担っているため、今後もさらに充実した大会運営を行うよう、会場設備の整備など野球環境の向上を図る。 また、今後も大会や大仙市のPRを続け、知名度の向上と地域活性化を図っていく。					
外部評価 有識者の 意見・評価	○500歳野球大会と550歳野球大会を開催していることから、その棲み分けや関連付け等については、今後の検討課題としていただきたい。合計年齢数の違いだけでなく、特徴付けをもっと明確にした方がいいように思われる。 ○全国的に知名度を高めるに足る事業と考える。活性化の一助となる。 ○大仙市を代表するスポーツイベントとなった。会場の設備充実など周辺環境にも配慮して一層の発展を望む。 大会本部会場の駐車場が手狭であることから、市有地を有効活用して主会場にふさわしい環境にしてもらいたい。					

事務事業の点検・評価表

番号	25	分野	スポーツ	担当課	スポーツ振興課
----	----	----	------	-----	---------

事業名	スポーツ合宿等推進交流事業							
事業の目的	スポーツ合宿、公式試合、交流試合等の実施を誘致・推進することで、スポーツ少年団や中学・高校の競技者等に刺激を与え、競技力の向上が期待できることと併せ、市民が競技スポーツへの関心を高め、またスポーツを活用したまちづくりや賑わいの創出を図り、地域の活性化に資することを目的とする。							
事業の実施状況	事業費	1,400千円						
	No.	団体名	人数			延べ人数	滞在日数(日)	宿泊日数(泊)
			選手	指導者	小計			
	1	秋田商業高校(テニス)	19	4	23	69	3	2
	2	青森高校	33	2	35	105	3	2
	3	山形中央高校	38	3	41	82	2	1
	4	浦和実業高校	60	3	63	189	3	2
	5	横浜商科大	71	3	74	586	8	14
	6	成蹊大学	54	1	55	327	6	5
	7	ウェルネス専門学校	21	1	22	153	7	6
	8	成城大学	42	3	45	258	6	5
	9	千葉商科大学	59	3	62	496	8	7
	10	上智大学	42	1	43	281	7	6
	11	学習院大学	82	7	89	683	8	7
	12	霧が丘高校	31	2	33	132	4	3
	13	明治学院大学	40	1	41	364	9	8
	14	立教大学(準硬式野球)	55	1	56	448	8	7
	15	東京学芸大付属高校	19	3	22	153	7	6
	16	日本体育大学(集団行動)	77	3	80	480	6	5
	17	東北学院大学(軟式野球)	24	1	25	100	5	4
	18	秋田商業高校(テニス)	9	1	10	40	4	3
	19	秋田聖霊高校(テニス)	12	2	14	70	5	4
	20	豊南高校(ソフトテニス)	18	7	25	150	6	5
		計	806	52	858	5,166	115	102
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった							
	<p>平成10年度から継続的に夏季合宿を行っている横浜商科大学・東京学芸大附属高校をはじめ、平成22年度から本格的に合宿を招致・推進してきた結果、合宿校は順調に推移し、大学野球に関してはリピートで合宿に訪れる団体が年々増加してきている。</p> <p>また、市内の高校生にとっては、普段対戦することのない関東地域の高校生との交流戦も多く行われることから、競技力向上にも一役買っている。</p>							
課題等	<p>今後、さらに充実した合宿ができるよう環境と設備の整備を図っていくが、夏季野球合宿の受入れには限界が見え始めていることから、今後は屋内施設等を利用した合宿を積極的に推進して招致活動を実施していく。</p>							
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○地元への経済効果が大きいことから、地元の各種団体と連携し、来訪者の満足度の向上、リピートの確保、合宿以外の事業の展開などにも、組織横断的な取組、公私を超えた取組を継続・拡大していただきたい。</p> <p>○大いに賛成である。新しい刺激が必要である。</p> <p>○20団体、延べ5,200人ほどの利用者となった。地元住民との交流のみならず、地元への経済波及効果もあった。</p> <p>総務省統計局のソフトによる試算では、約7,500万円と推計されている。</p> <p>受入態勢は飽和状態に達しているため、今後は時季をずらすなど工夫も必要と考える。</p>							

学識経験者の総評

佐藤 修司（秋田大学教授）

少子高齢化の中で、学校・学級の小規模化と、一方での学校統廃合やバス通学の増加が見られる。学校が地域の中核であり、地域文化の維持・発展の要であることに変わりはないことから、社会教育と学校教育の連携・融合、生涯学習体系の構築とともに、他の行政分野との連携も一層強めていくことを期待したい。また、バス通学の増加は、教育活動や子ども達の体力、精神面にも影響が及ぶことから、定期的、継続的な調査のもとに、様々な工夫を凝らしていただきたい。

様々な事業が活発に展開されており、高く評価される場所であるが、今後の大仙市全体や、市内各地域の人口、財政状況等の推移を踏まえながら、長期的な見通しに立った事業展開、予算確保に努めていただきたい。地域の維持、コミュニティの維持のために教育予算の確保が不可欠と認識されるような事業に今後とも取り組んでいただきたい。

今後の課題として、各教育機関・事業において、児童・生徒・保護者、住民や利用者の満足度等について、アンケートを取るなどのことをしていただき、客観的な数値の経年的な変化を踏まえて評価活動を実施することを検討していただきたい。

藤原 保子（元小学校長）

各部署の皆様から、懇切丁寧に事業の御説明をいただいたことにより、事業の結果ばかりでなく、経過についても理解することができた。関係各位の御労苦に謝意を述べたい。

総じて考えたいことは、それぞれの業務をサポートする地域の方々の活用がまず1点である。特に8地域の公民館で行われている事業は、事業内容、計画立案、事業開催等々すべてにおいて、多くの人材のサポートが必要と思われる。少ない人数で多くの事業を抱えていることは周知の事実である。職員の負担軽減を図りたい。また、このことにより、地域を背負って立つリーダーも育てられるのではないだろうか。人々の絆を深めていただきたい。既にこのことに取り組んでおられるかもしれないが、一層推進していただきたい。

2点目は、他部・課との一層の連携である。いずれの事業も、より効果的・合理的に成果を上げるために連携は必須である。特に健康福祉部には、協力ではなく共同実施していただく必要のある業務が多いと感じる。

最後に、教育委員会関係者の情報発信は、頻繁に十分行われていることを申し添えたい。場や機会が提供されているものの、なかなか足を運ぶことができなくても、興味や関心を抱いている方がたくさんいらっしゃる。イベント等が行われた様子や内容を広く知らしめることは、足を運ばない方々にとってありがたいものとする。

今後の皆様のご活躍を期待しているが、健康には十分御留意されたい。

鈴木 三郎（社会教育委員）

大辞泉で「教育」とは、ある人間を望ましい姿に変化させるために、心身両面にわたって意図的、計画的に働きかけること、とあります。

教育委員会の所管事務は、広範囲で多岐にわたっています。学校教育、社会教育、家庭教育までの広い範囲で、市民を望ましい姿に変化させるためには、職員も研鑽を積みながら目指すべき姿を追い求めることではないでしょうか。

教育委員会の事務は、法律や条例により定められたもの以外の業務が多くを占めているのが現状です。教育に関する事務の執行状況についての点検評価を行うに当たり、事業費の多寡や参加人数、開催回数等の角度からだけでは正しい見方、評価ができないと思われます。ある事業を市民はどう見ているのかを事後のアンケートに集計し、今後の事業内容に生かす試みは有意義であったと思います。

市民が求めているのは何かを常に考え、従前の業務をただ繰り返すことなく時代に合った方向へと計画的に進めていくのが教育委員会事務ではないでしょうか。

安らぎと張り合いのある生活が実感できる大仙市を目指して、今後も更なる創意工夫と御奮闘を願います。